



ホームページは「かつらぎ町教育委員会」でアクセスしてください



卒業・進級を迎えて



年が明けての1月・2月は、あっという間に過ぎ、いよいよ3月、卒業式を迎えます。教育支援センター（あじさいルーム）在籍児童生徒16人の内、6人が中学3年生です。この6人と

の関わりは、1年の時から色んな話を聞きながら、2年生から訪問支援をしながら、3年の後半から学習を中心に活動しながら、と期間の長短・支援の違いはありますが、私たち職員3名は子供たちの自立支援に取り組んできました。子供達の気持ちの揺れを感じ、どう言葉がけをしてよいか悩んだこともありましたが、中学校を卒業し高校進学と…、未知への不安は大きいと思います。しかし、新しい環境、新しい気持ちで、大きく変わる好機でもあります。高校受験・進学を乗り越え、安心と自信が高まり安定した高校生活を送れることを私たちは願っています。

卒業する6名と繋がり深かった中谷訪問支援員より

新たなつながりの中で

教育支援センターができておよそ三年が経とうとしてい。センターの存在が少しずつ認知され、在籍児童生徒が増えた。その中で保護者がセンターに期待することの多くは、人とのつながりやコミュニケーションであった。学習の遅れや進路への不安はあるもののそれ以上に人とつながる場としてセンターを希望してくれたのである。また、訪問支援についてもある保護者が「家族以外にも心配してくれる人がいることを子供に認識させることができてよかった。」と言ってくれたことが印象深い。センターの役割の一つは、こうしたつながりを作ることで生活する術を学べることだと思っている。今は集団の中で生活することが難しい子供たちも、やがては人とながって生きていかなければならない。だからこそ保護者はそれを期待するのだらう。それゆえ、センターではみんなで活動する時間やコミュニケーションの機会を設けている。同年代だけでなく異年齢の子供と交わることも大切にしていく。その中で自信をつけたり自分の得意を見つけた子供もいる。私は、その自信がもう一歩踏み出す勇氣につながるものと思っている。

この春、センターに在籍している中学三年生六名が卒業する。それぞれが新たな場所に行くが、そこでまた新しいつながりを結び心地よい居場所を見つけてくれることを切に願っている。

（訪問支援員 中谷有美子）

先日、昨年の卒業生が久しぶりにルームを訪れてくれました。学校の様子や家族のこと、そして、高校の先生に勧められ、ある財団の奨学金給付事業に応募をしたこと等、生き生きと話してくれました。その子の様子から「自分はこれができた」と思えた心の成長を感じました。卒業する皆さんも進級する皆さんも、心の成長には何が必要か考えながら日々を過ごしてほしいと思います。私たちも一緒に考えていきます。

注目されるスポーツの役割

今年度は町の体育センターでスポーツ教室を7回計画しました。バドミントン・ミニテニス・フリスビー等の運動をしました。通室している子供達の中にスポーツ教室を楽しみにしている子供がいます。特にバドミントンが好きだそうです。中学生の好リードで何回もつけるようになったO君（小学3年）、一人で入れなかったルームで活動できるようになりました。

不登校の子供にスポーツは有用で前向きな考え方ができるようになる時期に運動することで、他の人との協同関係を作ったりストレスが発散されたりする効果があるそうです。全国の教育支援センターで行われている運動で多いのは卓球とバドミントンです。これからも定期的にスポーツ教室を行っていきます。



気持ちを込めた書初会

各学校は1月に書初会を実施したと思いますが、あじさいルームでも1月29日に書初会を行いました。参加したのは、児童2名（3年と4年）と生徒1名（3年）の3名だけでしたが、静寂の中で集中した良い時間を過ごしました。3年生の児童は殆ど初めての毛筆だったと思いますが、姿勢良く筆遣いもしっかりと力強い字（「蝶」「蛾」）を書きました。4年生の児童は今年の干支「巳」と「夢」。中学3年の生徒は「夢」の一字を何枚も。整った大きな「夢」です。筆や硯石を丁寧に洗い後片付けもきちんとできました。一字に集中する書道で普段と違う子供の一面を見ることができました。

これからも書道教室としてあじさいルームの活動に取り入れていきます。



あじさいルーム 保護者の交流茶話会

あじさいカフェ



3月14日(金)15時より今年度最後の第6回保護者交流会をかつらぎ総合文化会館3階和室で行います。それぞれのお子さんに応じたより良い対応を保護者の方々と探っていきたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。